



### 【九州支部】

九州支部では役員会を2月22日(土)、総会を23日(日)に開催いたしました。

各種報告及び協議事項について検討を行い、平成30年度歳入歳出決算、令和元年度歳入歳出予算、第15回～17回九州支部総会・学術大会、九州支部規約の一部改正について承認を得ました。なお、九州ブロック支部長選出規程については、来年度の総会までに再度検討することとなりました。

また、元沖縄県支部長(仲本内科 院長)の仲本昌一先生に九州プライマリ・ケア功労賞を授与いたしました。



### 【福岡県】

#### 日本プライマリ・ケア連合学会 福岡支部総会

令和2年1月25日

寒雨のなか、博多駅上 JR 博多シティ会議室に27名の福岡県の学会員が参集し、支部総会が執り行われました。基調講演として、お休みされた草場理事長に代わり、前野副理事長より学会ウェブ会議システムを用いて「日本プライマリ・ケア連合学会が多職種とともに築く未来のビジョンとこれからの新・家庭医療専門医とは」という演題でご講演を頂きました。



<https://www.shin-kateiiryo.primary-care.or.jp/>



続きまして、福岡県支部規約に基づく支部長・副支部長・監事の選出が行われました。参加者27名および委任状を出された106名の学会員により、福岡県学会員437名の4分の1以上となり、総会が成立しました。

現任の西野憲史支部長(西野病院)、茂木恒俊副支部長(久留米大学医療センター総合診療科)に代わりまし

て、鍋島茂樹（福岡大学病院総合診療部）が支部長に、吉田伸（飯塚病院・潁田病院）が副支部長として承認されました。他4名以内の副支部長および2名の監事、12名の世話人につきましては、人事が確定していないことから、新支部長が指名し、次年度の総会において承認を検討する方針が決定されました。



結びのクロストークでは、当学会福岡支部会の課題と期待することについて、参加者によるグループディスカッションを行い、以下のような意見が集約されました。

## JPCA福岡県支部会の現状課題、今後の展望について

グループ討論 18:30まで 共有 18:40まで

(課題)

- ・講習会が遠いと困る
- ・地域とつながるノウハウがわからない
- ・JPCAの地域づくりに関する勉強会の情報が県に届いていない
- ・支部会の勉強会に各職種の単位取得をどう紐づけるか

令和元年時点で実施：医師会生涯教育単位、睡眠薬30日以上処方資格、JPCA認定・専門医単位、PC薬剤師単位を認定した

県内の郡市医師会で多職種勉強会をやった場合、医師会県支部・市支部・JPCAのすべての単位をとれたことがある。手続きが大変だが、スケジュール入れのタイミングなどコツがわかればやりやすくなる

- ・県医師会と連動して 活動を共有するには

県・郡市という構造になっているので、事業がふられている流れを見極めて、総合診療プログラムが関わっていくとよい（例：乳児検診実施、トランジション児のケア調整、）

- ・ジェネレーションギャップをどうするか

医学生場合：地域実習では新たな経験をできることもある。一定の割合で総合診療の志望者はいる  
ロールモデリングが必要。服装などは問題になりやすい（Tシャツ）

学習意欲やスタイルが世代によって大きく違う

薬剤師の場合：調剤では、新人薬剤師と担当指導で交換日記をつけて、週1回話し合いをしている

規約では学生は無料で参加できるようにしているが、本日もこの支部会に学生・初期研修医がいない。年1回の学生勉強会は支援している

- ・JPCA県支部会としてのカラーがまだよくわからない。職種ごとにどこにいるかわからない
- ・支部会会員のリストも支部会活動に利用とした時、JPCA全国のレベルでのリストはあるのですが、連絡先について本人承諾の手続きが“県支部会”でとっていないとできなかったので、支部会のメーリングリストをつくり、そこで本人承諾をいただいた（400人が県内にいる）

(期待すること)

- ・各種単位取得
- ・ジェネレーションギャップ克服の方法

- ・指導の際にプライマリ・ケアの概念と照らし合わせられる教材
- ・近くでやってもらえる講習会が魅力。東京・大阪とかでなく福岡で！  
単職種学会よりも、多職種で話しやすいJPCAの雰囲気を活かした教育機会がほしい
- ・クリニックの先生方と現行の専門医制度の共有の場をつくる必要あり  
専攻医ポートフォリオ発表会・医師会での勉強会・単位取得を同じ場で
- ・地域住民とのつながりづくり：総合診療医がコミュニケーションしてもらえるとよくつながる気がする。  
JCPAがそういった専門家のマッチングを各地域としてくれると助かる
- ・県単位の勉強会が、地域づくりの議論につながっていく。県の担当者にも勉強会での意見をデータベースに  
してもらいたい（例 ACP）
- ・県内の学生・初期研修医が支部会に入っていく規約整備、環境づくりを推進する
- ・地域行政との関わりを強めたい。県・郡市レベルの行政・医師会・看護協会・薬剤師会などの縦横の関係を  
把握し、JPCA支部としての事業をいれていく
- ・在宅医療介護支援協議会などで100人単位で多職種の連携を協議しているが、そこにJPCA支部のメンバーが  
入っていくのはどうか。JPCAの研修として認められるか
- ・県内 JPCA 会員を職種ごとにマッピングしてほしい、家庭医療・総合診療医がどこにいるかも見える化してほ  
しい（JPCA ウェブサイトの専門医マップと会員個人登録について紹介した  
[https://www.primary-care.or.jp/nintei\\_fp/fp\\_list.php](https://www.primary-care.or.jp/nintei_fp/fp_list.php)）
- ・支部会として活動をする用途目的での、県内のJPCA会員リストの利用許諾を本人にとる方法を体系化してほ  
しい（JPCA理事会に議題出しを検討する）



懇親会はシティ会議室となりのレストランにて開催し、18名が参加しました。

ここまで支部会を指揮くださった西野先生と茂木先生のご尽力に参加者一同感謝しつつ新しい体制による、福岡のプライマリ・ケアの発展を祈願し、閉会となりました。







以上

文責 JPCA 福岡県支部会副支部長 吉田 伸  
同支部長 鍋島 茂樹

#### 【佐賀県】

令和2年2月1日に佐賀大学医学部にて日本プライマリ・ケア連合学会佐賀県支部の第5回学術集会を開催した。まず基調講演として、医療法人大誠会内田病院理事長の田中志子先生に「大誠会スタイルの縛らない医療」というタイトルで、身体拘束を減らす現場での努力や工夫、これまでの道のりについてお話しいただいた。大変興味深い内容で、参加者各位から自身の医療機関でも実践できる、大変参考になったという声がたくさんあった。シンポジウムは「在宅の心不全診療について考える」というタイトルで、実際の症例に関わったスタッフをシンポジストとし、各々の立場から症例の紹介、実践したこと、今後の展望等についてお話しいただき、熊本大学大学院生命科学研究部生命倫理学講座教授の門岡康弘先生から倫理的な側面からのコメントをいただいた。今後ニーズが増えてくる在宅における心不全診療に関して、多くの参加者から大変勉強になったという声が聴かれた。当日の参加者は計61名。

#### 【大分県】

日本プライマリ・ケア連合学会第15回九州支部総会・学術大会は、2020年2月22日(土)、23日(日)の2日間にわたり、J:COM ホルトホール大分(大分市)を会場として開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される難しい状況での開催でしたが、Annual meeting としての重要性を鑑み、懇親会は中止としましたが、感染予防策を講じた中で学術大会の開催に踏み切りました。そのようななか266名の方にご参加いただきました。今回の学術大会のテーマは「九州でその人を支える～総合診療としての複雑困難事例への挑戦」としましたが、基調講演、シンポジウム、ワークショップ、一般演題の各セッションで“複雑困難事例”というキーワードが随所に使われ、複雑困難事例の問題解決に向けて果敢に挑戦してゆく姿勢が示せたのではないかと考えております。

大会初日の開会式では本学会理事長の草場鉄周先生、九州支部長の秦喜八郎先生、そして来賓として大分県医師会長の近藤稔先生にご登壇いただき、ご挨拶と激励のお言葉をいただき、本学術大会はスタートしました。まず特別講演は、本学会理事長の草場鉄周先生に「近未来の総合診療の展望」と題してご講演いただきました。総合診療が日本の社会の中で果たすべき役割、そして学会が進もうとする方向性を明確に示していただいたと思います。教育講演1では、柏木秀行先生よりプライマリ・ケアの実践者がどのように緩和ケアに関わるべきかをご教示いただき、教育講演2では、塩田星児先生がユーモアを交えながら、“探求心こそ研究である”こと

を話されました。2日目の基調講演は藤沼康樹先生にご登壇いただき、地域医療の現場で出会う健康問題の性質と構造が少子高齢化と病院医療と診療所や在宅医療の役割分担が劇的に変化しているなか、**Expert Generalist Practice** モデルを日本の地域医療に実装するためにはどのような方略があるかを解説いただきました。シンポジウム1では、各先生方にポリファーマシー、誤嚥、転倒における治療と予防のエビデンスについて見事にまとめていただき、非常に勉強になったと思います。シンポジウム2は医療現場での様々な困難事例における多職種連携での取り組みについて熱い討論が展開されました。また、ランチタイムセミナー「プライマリ・ケア診断エラー回避術 (林寛之教授)」と「健康の社会的決定要因 (小松真成先生)」の会場にも多くの聴講者が集い、熱気に溢れていました。ワークショップ1「多職種で挑む複雑困難事例」、ワークショップ2「教育の困難事例」、学生企画「謎を解け! おばあちゃんに必要な地域資源って」、キャリアカフェ、およびポートフォリオ企画など、いずれも盛況で、各会場で熱心な討論が行われていました。一般演題には22演題もの登録をいただき、学生セッション最優秀賞は地元大分大学の重田真輝さんが受賞しました。多くの皆様に支えられて第15回九州支部総会・学術大会は盛会のうちに終了いたしました。



文責：第15回九州支部総会・学術大会 大会長 宮崎英士

## 主なプログラム

特別講演：「近未来の総合診療の展望」

草場鉄周 (日本プライマリ・ケア連合学会/北海道家庭医療学センター 理事長)

基調講演：「Expert Generalist Practice とプライマリ・ケアの新しいパラダイム」

藤沼康樹 (家庭医療学開発センター センター長)

教育講演1：「プライマリ・ケアが支える心不全緩和ケア」

柏木秀行 (飯塚病院 連携医療・緩和ケア科)

教育講演2：「サザエさんと総合診療の研究の話をしよう」

塩田星児 (大分大学医学部 総合診療・総合内科学講座)

シンポジウム1：「総合診療の困難事例 ～治療と予防のエビデンス～」

座長：多胡雅毅 (佐賀大学医学部附属病院 総合診療部)

堀之内登 (大分赤十字病院 総合診療科)

演者：堤 大輔 (津久見中央病院 内科)

松浦良樹 (古賀総合病院 内科)

香月尚子 (佐賀大学医学部附属病院 総合診療部)

シンポジウム2：「総合診療の複雑困難事例 ～多職種連携（仮）～」

座長：井上雅公 (杉谷診療所)

伊南富士子 (大分県看護協会)

演者：大塚奈々 (坂ノ市病院在宅医療連携センター)

山内勇人 (在宅支援クリニックえがお)

下瀬裕子 (大分県豊後高田市健康推進課)

その他のプログラムについては以下のホームページにてご覧になってください

抄録集もご覧いただけます

<http://kyusyu-primary-care.com/>

#### 【鹿児島県】

第44回鹿児島地域医療教育講演会

日時：2020年2月4日（火）18：00～19：30

場所：鹿児島大学医学部 第5講義室

主催：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター  
鹿児島大学

鹿児島県くらし保健福祉部 保健医療福祉課医療人材確保対策室

共催：日本プライマリ・ケア連合学会鹿児島支部会

後援：鹿児島県医師会

講演：「 離島および発展途上国における医療の実際 」

「 中村哲先生の足跡 」

医療法人南溟会宮上病院 内科部長 小林 晃 先生